

## いまこそ、地域社会とともに。

地域活動実践センター 副センター長 西畑敏秀

誰もが感じているように、ここ数年で私たちの周辺における情報コミュニケーションの社会は激変しました。老若男女を問わず、インターネットや携帯電話の利便性を一度体感してしまったらもうなかなか後戻りすることは困難です。さらには話題のフェイスブックだの SNS だの、見知らぬ人や会ったこともない『おともだち』との交流が地域や地方や国までも越えて拡がって、グローバル（世界的な規模）とかボーダレス（国家の枠を越えて）などとどまることを知らない様相。しかしながら身近な現実としては、世界に拡がるフェイスブックもかつての友だちを捜し連絡する同窓会や、いつも会ってる仲間との連絡網などけっこう近い集まりの情報連絡として有効に活用されているのです。思えば携帯のメールなども、かつての交換日記のようであったり（旧いですねえ）なかなか言えなかった親子や孫との家族間での言葉のつながりであったり、意外にすぐ周りの人たちとの関係を深くしているものです。情報ネットワークがどれだけ世界に拡がろうとも、まずは身近な隣人を大切にすることが真の国際化の第一歩だと、世界中で活躍するアーティストの方が語っていました。当センターはその名の通り『地域活動を実践する』ための機関です。毎年学生ボランティアや講座実施など、地味に地道に地域社会との連携活動を実施。各学科の専門性に関連した学生による活動は、まさしく今の社会情勢にとって求められる基盤作りや人間関係の再構築につながるのではないかと思います。卒業生のほとんどが地域社会に巣立つ仁愛女子短期大学こそがまずは小さな身の回りに気遣いのできる存在でありたいと願います。